

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：青山悦子
(松江市立川津小学校)

編集：情報部

VOL.64 2018.12.12 (時雨号)

発行責任者 蘿 恵 (志学中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 「県大会を終えて」(副会長)
- ▶ 研究部の取組
- ▶ 県大会の感想
- ▶ 研修報告
- ▶ 安来市立学校事務支援グループの取組
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



県大会を終えて

副会長 今若 淳子

秋も深くなった11月14日、益田市 島根県芸術文化センター(グラントワ)において、第49回島根県公立小中学校事務研究大会を、教育関係諸機関・団体の皆様のご支援・ご協力により開催いたしました。

今大会では、来年度開催される全事研岡山大会において、分科会を担当する本会研究委員会の取組を皆様にお伝えし、ともに考えていただくために中間発表を行いました。また、午後は横浜市から住田昌治様にお越しいただき、「持続可能な学校づくり～学校が生きた組織になるために 今あなたにできること～」と題し、ご講演をしていただきました。改革をするためにはまず自分が変わらなければいけないこと、そして、一人で立ち向かうのではなく、周りの人とコミュニケーションをとりながら進むテクニックの重要性を改めて感じた私でした。

今回、開催日が週の中日であったためか、県東部からの参加が少なく、午前午後ともにたくさんの皆様にお聞きいただくことができなかったことが心残りではありましたが、参加された皆様とともに充実した一日を過ごすことができました。大会を開催するにあたり、準備・運営を担当していただきました益田管内小中学校事務職員研究会の皆様、すべての関係者の皆様、そしてご参加いただいた皆様に心から深く感謝いたします。ありがとうございました。

いよいよ来年度は第50回大会となり、節目を迎える大会となります。次の世代の事務職員が必要とするであろうことを残しながら、今の私たちが満足できる研究会とはどのような形なのか、「カラフルで持続可能な研究会づくり」に向けての課題を皆様とともに考え、取り組みたいと思っているこのごろです。ご意見やアイデア等、ぜひ皆様の声を各市郡選出の理事をはじめとする島事研役員にお聞かせください。

今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

研究部コーナー

研究部 部長 岡田 由美

島事研大会★中間発表を終えて【裏話的感想とPR】

■佐伯 圭一(研究部員・研究委員・島事研研究部画伯)

*パソコン操作・フロアインタビュー担当



■奥井 洸介(研究部員・研究委員)

*PCスイッチャー操作・フロアインタビュー・伝令・スライドショー事務職員A役担当

無事に中間発表が終わりました。住田校長先生より、働き方改革について講演をいただきましたが、現任校でも管理職を中心に働き方改革が行われています。僕はアナライザータイプ、そして教頭はプロモータータイプとのこと。コミュニケーションタイプは違いますが、お互いの意見を出し合うことでより良い改革になっていくことを体感しています。研究活動は頭が痛くなることも多いですが、先輩方の意見を聞くことができる貴重な時間です。今後も全事研大会に向け、自分にできることをやっていきたいと思います。

■白瀬 愛美(研究部員・研究委員)

*アナウンス・フロアインタビュー担当

研究部の発表を聞いていただきありがとうございました。ワークショップはいかがでしたか。皆様のコミュニケーションタイプは何タイプだったのでしょうか。ちなみに私はアナライザータイプでした。当てはまっているような、いないような。研究発表だからと難しく構えず、楽しく発表を聞いていただきたいなという思いで準備を進めてきましたが、和やかな時間を過ごせましたでしょうか。近くの方とわいわい盛り上がる時間を作れていたらいいなと思います。来年度の本番まで残り時間は少なくなってきましたが、よい研究発表になるよう頑張りますので、岡山に応援に来てくださると嬉しいです。

■今若 淳子(研究部顧問・研究委員)

*全体指揮・タイムキーパー・フロアインタビュアー・スライドショー制作監督担当

私がいただいた役割の1つめ、ロールプレイ用ミニスライドショー作成担当でした。ほんの数枚のスライドで参加者の皆様に状況を伝えるために、私の勤務する学校で主演の奥井さんとともに案を練り、写真撮影をしました。そして当日は、中間発表の分刻みの原稿を見ながら、発表者に「30秒前」「5秒前」「5秒超過」「すぐに終わる」を知らせるための大きな色付きカードとストップウォッチを用意し、参加者席前列の隅のほうへ座りました。しかし、あまりにテンポよく進んだため、まったくカードの出番はなく、反対に「もう少し伸ばせ」の合図のカードが必要であったと…反省。全国大会成功に向けて、合図カードの種類を増やしていきますね！

■木戸 清治(研究部員・研究委員)

*分析・PC機器担当

当日はおめでたい理由により急遽欠席

■児玉 和寛(副部長・研究副委員長)

*発表・分析担当

当日は勤務校研究発表大会前日のため泣く泣く欠席

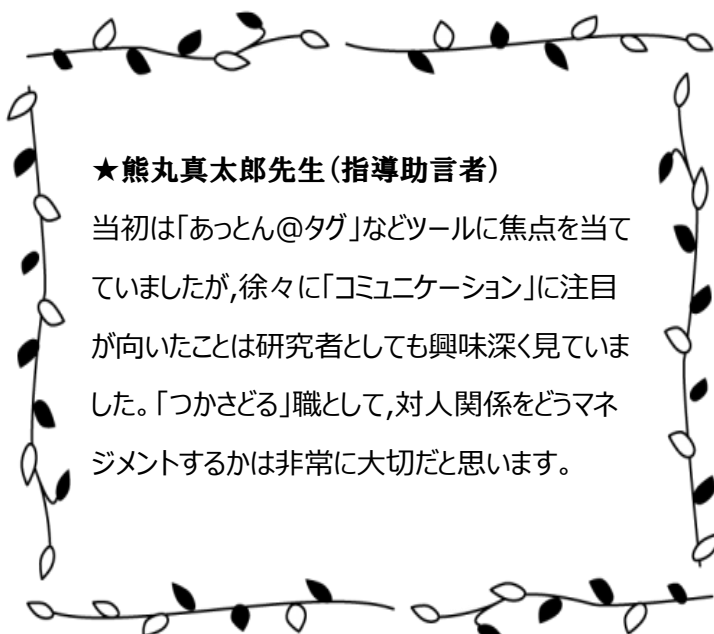
■岡田 由美(研究部長・研究委員長)

*発表・演出担当

グラントワという素晴らしい会場で、中間発表の機会をいただきありがとうございました。思い返せば、前回の研究部担当の発表【第四次研究中期計画総括】をさせていただいたのもグラントワ。研究部長となって初の大舞台を踏ませていただいた…私にとって思い出のある場所です。参加者数は例年よりも少なく残念でしたが、実行委員会の皆さんのきめ細やかなご配慮や、参加してくださった皆さんの好反応のおかげで、ステージ上でいきいきと発表を進めることができました。



残念ながら、大会当日は欠席しましたが、今回の発表に当たって、なくてはならない存在です！



★熊丸真太郎先生(指導助言者)

当初は「あっとん@タグ」などツールに焦点を当てていましたが、徐々に「コミュニケーション」に注目が向いたことは研究者としても興味深く見ていました。「つかさどる」職として、対人関係をどうマネジメントするかは非常に大切だと思います。

岡山大会までには、研究の推進はもちろん、もう少しジョブズな感じが醸し出せるよう、そして熊丸先生とのかけあいも自然にこなれた感じで披露できるように“楽しまねば Shimane★”で研究を進めていきたいと思っております！

岡山大会までには、研究の推進はもちろん、もう少しジョブズな感じが醸し出せるよう、そして熊丸先生とのかけあいも自然にこなれた感じで披露できるように“楽しまねば Shimane★”で研究を進めていきたいと思っております！

「島事研の会員でよかった」と島根の皆さんに思っていただけのような発表ができるよう、研究委員一同頑張りますので、今後ともご理解・ご支援よろしくお願ひします。



第49回

島根県公立小中学校事務研究大会

期日：平成30年11月14日（水）

会場：島根県芸術文化センター（グラントワ）

～参加者の感想～

○全事研岡山大会島根支部中間発表（研究委員会）

- ・来年の全国大会での分科会がぜひ聴きたいと思いました。コミュニケーション能力に着目した点が新しく感じました。
- ・タイプを分析することはおもしろい試みだと思いました。今後こういったアプローチができるか自分の行動を考えてみたいです。
- ・グループワークがとてもよかったです。グループワークをとおして主体的に参加している感覚になりました。このような会場全体を巻き込み、事務職員の職務、島事研について自分事として考えさせる方法に賛成です。グループワークの内容、表現もおもしろく取り組みやすかったです。
- ・自己分析によるタイプ分けなど、改めて自分を振り返ることでどうふるまえばよいか考えることができた。コミュニケーションは大切だが、そのやり方はひとつではなく、それぞれの人によって異なるので、相手に合わせたりしながら連携して仕事をしたい。
- ・学校事務職員のコミュニケーションの仕方と仕事を結びつけて研究するというのがおもしろかった。



○講演 『持続可能な学校づくり～学校が生きた組織になるために 今あなたにできること～』

講師：横浜市立日枝小学校 校長 住田 昌治 氏

- ・E S Dについてあまり知らなかったのですが、今日の講演で勉強できてよかったです。持続可能な学校づくりには「あたり前」を変えていく必要があることもよく分かりました。現任校でも「あたり前」を変えて、さらに働きやすい環境になるようチームで働いていけるといいなと思いました。



- ・住田先生の今日の話を教職員、市教委等もたくさんの方々に聴いていただきたいです。住田先生の学校で働けたら幸せだと思いました。
- ・ワクワク仕事がしたい、本当にそのとおりです。学校事務職員は先生や子どもを支援したいという思いがあります。サーバントリーダーシップを発揮しながら、自分や教職員の働き方について考えたり、働きかけていきたいと思いました。
- ・現在本校でも働き方改革について取り組んでいる。困り感や働き方改革について知ること、共通理解することから始めている。ぜひ県の校長大会や教育施策説明会で話をしてほしい。
- ・現在のことだけでなく未来、将来を見据えて生活や仕事をしていくことの大切さが分かった。

研修報告

『50周年記念全国公立小中学校事務研究大会千葉大会』

飯南町立頓原小学校 村田 淳一

50周年記念全国公立小中学校事務研究大会千葉大会が8月1日からの3日間の日程で開催されました。開会式は習志野市立第五中学校吹奏楽部の美しい演奏で始まり、子どもたちの一生懸命な姿に、学校教育に携わることのすばらしさを再確認しました。

開会式に続く文科省行政説明では、今後事務職員に期待する能力として、教育委員会や地域と連携する力、組織マネジメント力、主体的・積極的に学校運営に参画することについて提案がありました。また、全体研究会では第8次研究中期計画の実践報告、各市区町村の職務規定状況等が説明され、第3期学校事務のグランドデザイン策定報告では「教育行政の専門職として課題解決にむけて積極的に発言してほしい。そのためには常に学び続け、力量を上げ続けてほしい。」と提言されました。初日の最後に、ソウル五輪金メダリストで、現スポーツ庁長官・鈴木大地氏による記念講演が行われ、その中で部活動の外部指導員を導入し成果をあげた事例をあげ「よりよいスポーツ指導とはどのようなものか。心身ともに健康的な生活を送ってもらうため、小さい頃から体を動かす楽しさを知ってほしい。」と締めくくられました。

2日目は本部研究分科会を含む9つの分科会発表が行われ、愛媛支部「学校力を高める学校事務の在り方」に参加しました。子どもたちの未来のために事務職員として、組織のなかでどのような取組が必要かという提案がされました。研究協議では、各地域の制度の状況について共通理解を図り、「チーム学校」のスタッフとして「理想のリーダー像」について参加者それぞれの意見を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、助言者からは、様々なリーダー論を用いて「幸福感は伝播する。幸福感を高め、チームの意欲を高められるリーダーになりましょう。」とエールを頂きました。

最終日には大会報告の後パネルディスカッションが行われ、「つかさどる」職となって何が変わったか、変わらないとすれば何が課題か等を軸に議論が展開されました。初めての全国大会への参加でしたが、全国各地の事務職員の姿を目にし、考えを聞くことができ、刺激的な3日間となりました。



『教育法規の基礎講座』

出雲市立河南中学校 光谷 和也

10月26日に島根県教育センターで行われた教育法規の基礎講座に参加しました。

午前中の講義では、法律（法令）の体系について、“成文法の優先順位に関する原理”の説明など、詳しく丁寧に説明していただきました。この講義を受け、私たちは学校事務職員である前に一公務員であるということ、だからこそ私たちの業務は、法律に基づいたものでなければならないということを再認識させられました。だからといって、堅苦しく仕事をするわけではないですが、日々の業務の根底には法律があるということを意識し、学び続けることも大切なことだなと感じました。

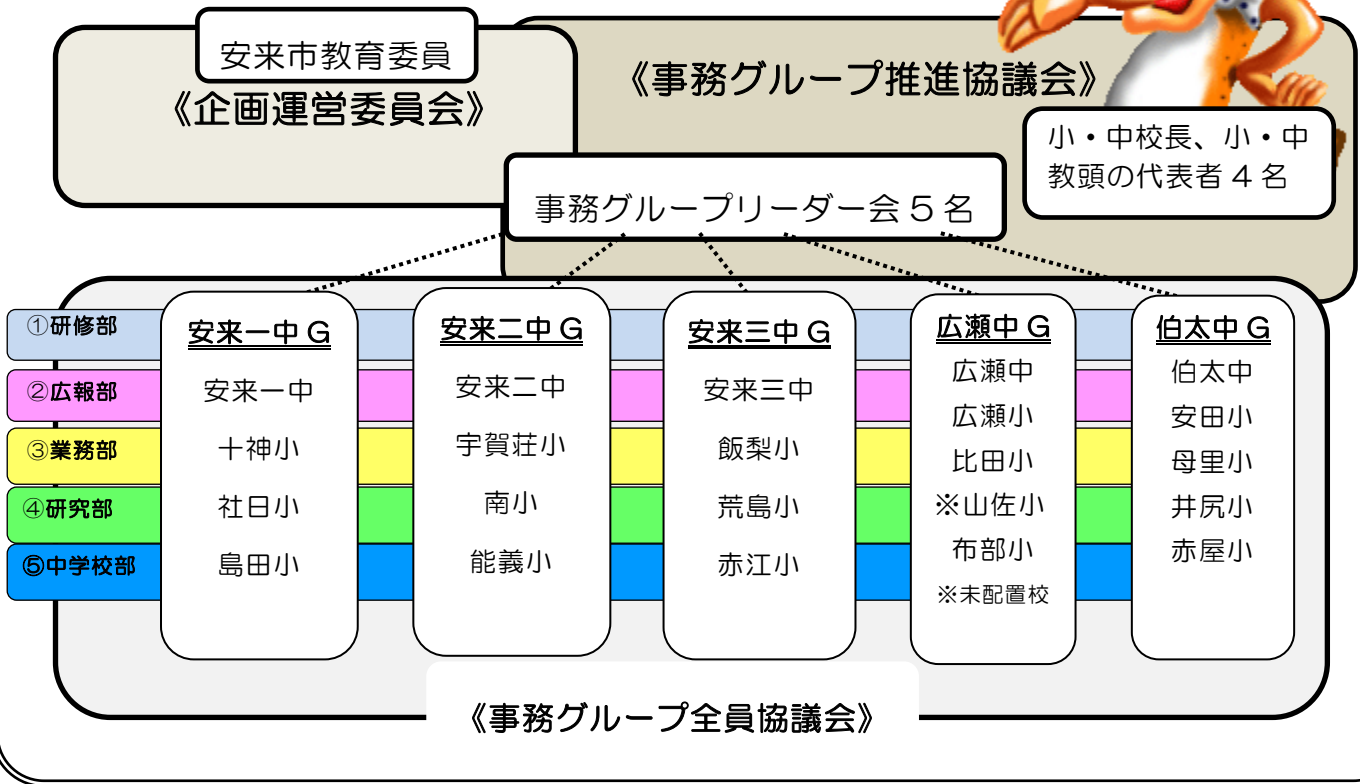
午後の講義では、人事関係法令要覧（通称：赤本）の読み方について、法令の全体構造、法令用語の解説や読み方のコツなどを交えて説明していただきました。また、旅費事例を法令根拠に基づき説明するという実務演習があり、参加者全員が赤本を開き、各々の解釈をグループで話し合いました。私が日々の業務で赤本を開くときには、基本的に手引きなどをみて情報が足りないときに、その情報を探すための、いわば「困ったときにのみ使用するツール」のような使い方がかりしていました。

しかし、今回の演習のように旅費事例一つにも、様々な法的根拠があり、それを調べることで初めて自分のしている事務処理を“理解”し得るのだなと身にしみて感じました。赤本を開いて調べるということを特別なことではなく、日々の業務の流れに取り入れること、ただ知識を広げるばかりでなく、知識を深めることも大切にしていきたいなと感じました。

安来市立学校事務グループの紹介です!!



【組織概要図】



【運営体制】

- 研修部** ⇨ 新規採用・若年層対象研修の企画運営。グループリーダーで構成。
- 広報部** ⇨ 事務グループ活動の周知活動,各種の情報発信。今年度は,各グループで活動。
- 業務部** ⇨ 「文書班」・・・文書事務のICT化を目指して。文書管理のルールについて検討。
※3つの班で活動 「手引き班」・・・就学援助事務,学籍事務,特別支援教育奨励費事務の手引きの更新。
 「働き方改革班」各種システムの検討,働き方改革につながる業務の効率化。
- 研究部** ⇨ 安来市教研,松江地区事務研,島事研等研究活動の推進。
- 中学校部** ⇨ 中学校特有の事務について,市内中学校で共通理解を図り事務を円滑に推進。

【平成30年度各グループ重点事項】

- 安来一中G ⇨ 加配による小中連携強化と相互支援。若年経験者への支援並びに相互研修。
- 安来二中G ⇨ 各校の事務処理上の課題・問題の共有及び解決へ向けての相互支援。
- 安来三中G ⇨ 臨時的任用事務職員への支援,OJT。日常業務の質疑,課題の解決に取り組む。
- 広瀬中G ⇨ 加配による未配置校(山佐小学校)支援体制等の構築,新規採用者への支援及びOJT。
- 伯太中G ⇨ 連携による資質向上と事務の平準化。事務の効率化による教員の事務負担軽減。

『 ますます充実！安来の事務グループ 』

安来市立学校事務グループ 統括グループリーダー 梶岡 純子
(安来市立第一中学校 事務リーダー)

《特色ある学校づくりの推進》《教育の質を高める基礎となる学校の事務・業務の効率化及び適正化》《事務職員の資質向上》を目的として、安来市では平成22年度に本格的に事務グループ活動が始まった。

各グループでは、原則月2回のグループ会と、各グループを横断して、5つの事業部を設けて活動しており、事務職員の資質の向上のために、研修部では年3回の研修会を実施している。対象は、11名の新規採用者・若年経験者（概ね5年未満）で、今年度は、松江教育事務所や安来市教育委員会から講師をお招きし、実務（年末調整）や教育課程についての研修を行った。また、夏休みには島根県教育センターへ出向き、『事務職員人材育成基本方針』や、事務グループ活動の推進について研修を深めることができた。

今年度は特に「業務部」に力を入れ、今までの「文書班」「手引き班」に加えて新たに、「働き方改革班」を立ち上げた。ここでは、今話題の働き方改革、業務改善につながる研究実践に取り組んでいる。全員がいずれかの班に所属して活動することで、各グループからの意見収集や、事業部（研修、広報、研究、中学校）各部の活動に連動するような仕掛けになっている。日々の事務を遂行するにあたり、まず、誰もが安心して仕事ができるよう、事務グループ活動をますます充実させていこうと思う。



『 子どもたちのために 』

安来市立学校事務グループ推進協議会 会長 辻谷 洋子
(安来市教育委員会 教育部長)

私が市職員として採用されたのは、今から36年前、勤務先は安来一中、職務は市の学校事務だった。学校には当然県の学校事務職員もおられ、市費に関わることは市の事務職員、県費に関わることは県の事務職員と、事務分掌が分かれていた。県費学校事務職員の斉藤教子さんは、子育てしながらバリバリ働く、仕事のできる女性の手本のような人で、大学を卒業したばかりの私に、仕事を一から指導してくださった。彼女からは、仕事のノウハウだけでなく、教職員のチームワークの大切さ、仕事と家庭の両立のコツなど様々なことを教わった。

次の勤務先は安来三中。ここには学校事務職員の門脇陽治さんがおられた。門脇さんには勤務時間という概念はないようで、子どもや教職員が登校する前に清掃や草刈を終え、放課後には、学校の修繕作業や環境整備を夜遅くまでやっておられた。事務が完璧なのは当然のことながら、樹木の剪定から、大工や左官仕事、水道、電気、ガラスの修理等、何でもできる人だった。彼からは、仕事に真剣に取り組む姿勢や厳しさ、子どもや学校に対する熱い思いなど多くのことを学ばせてもらった。

その後、私は市役所勤務となり、様々な部署を経験し今年4月から教育部長の職を拝命した。今の私があるのは、お二人の指導のおかげだと感謝している。

ところで、30数年前の学校事務しか知らない私は、今年教育委員会に異動になって驚いた。私の中の学校事務は、子どもたちが学びやすいように、また先生方が働きやすいように陰で支える、いわば縁の下の力持ちのイメージだったが、今、学校事務職員に求められているのは、校務運営に主体的、積極的に参画するよう「事務をつかさどる」ことである。時代とともに、学校も家庭も地域も変わり、仕事内容も複雑で多岐にわたるとともに事務量も膨大になり、学校事務に対する期待も高まっているとつくづく思う。

私は同じ職場ですばらしい先輩に出会い、多くのことを学ばせてもらったが、ほとんどの学校は一人職場で、事務グループでの活動は、情報交換、情報共有、職員の育成の場として本当に有効だと思う。教職員の中で唯一事務の専門職である学校事務職員の皆さんには、事務グループ活動の中でスキルを更に磨き、学校事務のプロとして、それぞれの学校の中で管理職、教職員と一緒に積極的に校務運営に参画してほしい。私も、再び学校事務職員の皆さんと共に働くことができるご縁に感謝しながら、安来市の子どもたちのために頑張りたいと思っている。





『児童とのかかわり』

松江市立津田小学校
土尾 奈央

この人権コーナーを書くにあたって、今一度校内研修の人権教育の内容を読み返してみたところ、「しまねがめざす人権教育」から「人権を通じての教育（人権が尊重される環境づくり）」の内容が私の目に留まりました。

『教職員の姿も子どもに影響を及ぼす教育環境』です。

教職員には学校事務職員も含まれているので他人事ではないかと再度感じました。私が児童と多くかかわる時間が掃除の時間です。掃除の時間は約10分という短い時間ですが、その時間も児童にとっては学ぶ時間でもあります。掃除をきちんとしている姿を見せて、掃除の仕方や意義を伝えることが大事だと思います。そして、掃除をなかなかしない児童に対しても言葉を選んで注意しなければいけないと感じました。

先日一緒に掃除している児童たちが言い争いをしていました。言い争いの内容は些細なものでしたが、結構二人ともヒートアップしていました。一方的にどちらが悪いかを決めるのではなく、双方の話を聞いて解決策を見つけるということを聞いたことがあり、それを実践しようとしたのですが、なかなか上手くいきませんでした。その言い争いは掃除終了後収まりましたが、私はその時どのような仲裁の仕方が正しいのかわからなくて困ってしまいました。どれも絶対的な正解はなく、その児童によって対処を考えないといけないのはとても大事なことだと改めて感じました。

掃除以外でも児童のほうから私に話しかけてくることがあります。児童と話すのはとても楽しいですし、元気ももらえます。事務職員なので児童とかかわる機会は少ないですが、機会が少ないからこそ今有る機会を大事にしていきたいです。人権教育は学校全体でしていくもので児童は事務職員のこと先生として見えています。直接指導する立場ではないですが、児童に先生としてふさわしい態度をとることができるように日々努めていきたいです。そして、人権教育を共に学びあえていけたらと思います。



原作：千葉ひろみ 画：大橋幸子

【編集後記】

今年は何かしてみようと思い、自宅のベランダでミニトマトを栽培してみました。張り切って袋の種を全部植えてしまったところ、全ての種からみるみる芽が出てくるではありませんか！？瞬く間にプランターにいっぱいになるところまではよかったのですが、小さなかわいらしい実しかできませんでした。原因をいろいろと調べてみると、植え過ぎかなという結果に至り、この失敗を次に活かそうと、早くも来年の夏が来るのを楽しみにしながら過ごしている、師走の今日この頃です。(K. N)